

再生可能エネルギー
発電コストの低下で存在感

運用部ポートフォリオマネジャーの龍見麻樹氏に聞く

運用パフォーマンス、特にこの半年で大きく好転

■投資テーマ別・代替エネルギー
投資テーマ別に見ると、代替エネルギーは、太陽光発電や風力発電などのクリーンエネルギーに関連する事業で、足元で特に注目されている分野だ。再生可能エネルギーのコストが低下して、化石燃料と同じまたは低い水準となってきた。国際再生可能エネルギー機関のレポートによると、エネルギー源別発電コストについて2010年と19年との新規導入分のコストを比べた場合、例えば太陽光は2010年に化石燃料の発電コストを大きく超えていたが、現在は化石燃料のコスト水準まで低下している。米国や欧州、インド、中国などでは、太陽光や風力による発電の方が化石燃料による発電より安くなっている。日本では代替エネルギーのコストが安くないため世界の中で取り残される形となっており、太陽光や風力による発電の優位性が感じられない状況にある。世界各国では企業や電力会社が新しい発電所を作る場合、太陽光や風力といった再生可能エネルギーに力を入れていこうとする動きが自然な流れになっている。再生可能エネルギーを推進しない国や大企業へは厳しい目が向けられがちな状況にあるため、ファンドの中でも再生可能エネルギーに追い風が吹いていると言える。こうした点が、当ファンド設定当初とは取り巻く環境が大きく異なる点だ。一次エネルギーシェアの予測では、化石燃料から太陽光や風力発電などのクリーンエネルギーへの転換が急速に進むと考えられている。また、事業への年平均投資額の予測では、太陽光や風力への投資が拡大する一方で、原油・ガスへの投資額は縮小し、両者の投資額は逆転する見通しにある。さらに米国や日本も政策転換をすると、このシェアや投資額が上方修正されることが期待される。

ファンドにおける投資先企業としては、欧州を中心に太陽光発電所を建設・運営しているソラリア・エネルギー・イ・メディオ・アンビエンテ(スペイン)や、洋上風力発電で世界最大級の規模を誇るオーステッド(デンマーク)などがある。

■投資テーマ別・水

水は、主に水の供給、インフラ、品質などに関連する事業。地球上の水の約97%は海水であり、使用可能なものとしては氷河を除いて

地下水や河川の水のみであることを考えると、その量は非常に限られており、水の需要が増える中では再利用や水処理を行ってリサイクルする必要がある。人口の増加や経済成長に伴って水の需要は増えるため、水処理できれいな水にするテクノロジーが必要であり、水道などの設備面では節水の技術も必要となる。また、海外では水道管破裂など水の事故が多く起きているほか、古い水道管には鉛などが使われているため、水道水に鉛が溶け出すという問題もある。欧米各国が飲料水に対して規制を強化していく中で、水道に関しては水道管の交換や、水処理に関しても先進国で今まで以上に規制を強化する必要がある。水道の整備と言うと新興国が中心と思われがちだが、先進国も水道水の関連規制の強化や、老朽化している水道管の交換が課題となっている。今後はテクノロジー革新などに伴って水道設備の更新が求められる。

ファンドにおける投資先企業としては、水を全米各地で供給するアメリカン・ウォーター・ワークス(米国)や、水関連技術を世界各国で供給するザイレム(米国)などがある。

■投資テーマ別・農業

農業は、主に農作物の生産性向上(肥料・種・バイオテクノロジーなど)に関連する事業。人口増加と生活水準の向上に伴って食料需要が増大する見通しで、特に肉食が増える。肉の生産に必要な飼料は、多い方から順に牛肉、豚肉、鶏肉となっており、牛肉や豚肉への嗜好(しこう)変化が起きると畜産を生産するにあたって動物が食べる穀物を多く消費することになるため、穀物の消費量、つまり飼料の需要も大きく増えていくことになる。これを解決するための生産性向上に向けた取り組みとして、農業や肥料、農機などがある。足元の先進的なものとしてはスマート農業によって、例えば、AIが作物と雑草を区別し除草剤を効率的に雑草のみに散布することや、水が過不足なく行き渡るようにコンピューターによって制御する技術の活用が挙げられる。また病気や虫害に関するモニタリング技術が進化することにより、農業の効率性改善が進んでいくと考えられる。

ファンドにおける投資先企業と



しては、世界最大級の農業機械メーカーのディア(米国)や動物向け医薬品メーカーのゾエティス(米国)などがある。

■パフォーマンス

基準価額は、設定当初に上昇した後、リーマン・ショックによって下落した。その後、回復は出遅れたが、最近は急上昇している。20年12月30日現在の運用実績は、設定来が49.90%、過去1年が39.46%、特に過去6カ月が47.75%と好調だ。背景としては代替エネルギー関連銘柄が先高期待から上昇していることが大きい。また、テーマ別構成比率では、注目度の高い代替エネルギーが57.5%と、ポートフォリオの半分以上を占めている。水は30.7%、農業が11.8%となっている。今後も機動的に構成比率を変更していく。また、国別構成比では、米国が39.0%、スペインが15.9%、フランスが8.4%、デンマークが7.7%、日本が4.3%などとなっている。

■アピールポイント

当社は欧州の運用会社とあって、もともと環境に対する意識が高い。当ファンドの基準価額は、環境に対する企業や政府の取り組みや、代替エネルギーの発電コストの低下をきっかけに上昇しており、現在は最高値レベルにある。特にここ数カ月は、欧州のグリーンリカバリー、米国大統領選挙でのバイデン氏優勢が伝えられたところから投資家の方々の関心が高まっている。代替エネルギー関連に投資しているということでお客さまや販売会社の方々からのお問い合わせも増えている。欧州のグリーンリカバリーについては、プランが出たばかりであり具体的な投資はこれからだ。また日本でも、今後は同様な動きが期待される時期になってくる。当社でも投資環境に関する分かりやすい情報発信に努めており、今後も資料や動画などを使って情報提供の拡充を積極的に行っていきたい。